

# まえがき

彦根市教育委員会 教育長 西嶋 良年

彦根市および彦根市教育委員会では、子どもたちが文化芸術活動を通して自己表現できる機会を提供するとともに、子どもたちに文化芸術を体験し興味をもってもらい、豊かな心と感性を育て、将来の文化芸術活動の後継者を育てることを目的とする『ひこね子ども文化芸術奨励事業』を、平成二十二年から実施しております。

その事業の一つとして、日本語の持つ言葉本来の美しさを感じることで、子どもたちの豊かな表現力（考える力・書く力・伝える力）を育むことを目的とした「ひこね子ども文芸作品」を実施し、俳句、川柳、短歌、詩の作品募集を開始してから十年の年月が過ぎました。

今年度は、延べ三、六一二人の子どもたちから、五、九七二点もの作品が寄せられ、昨年度と比較して応募者数ならびに応募点数が増加し、子ども文芸のとり組みがみなさんに根付いてきたことを大変うれしく思っております。

日常生活において、全く面識の無い人（作者）の作品を目にして、「ああ、わかる」と感じたことはないでしょうか。互いに面識が無くても、作品を通じて共感できるということは文学が持つ大きな有効性です。また、創作すること、同年代の創作した素晴らしい作品に触れることで、同じ物事でも様々な感じ方や視点があるという発見が自身の中に生まれると、多角的視点を高め伸ばして行く良いきっかけになるのではないかと思います。

今年度の入賞作品を拝見していると日常の中で思わず見過してしまいそうな心の機微をとらえ、うまく表現した個性が光る作品が多くあったと感じました。来年度は是非とも今年度応募した部門以外の創作に挑戦してください。期待しています。

最後になりましたが、彦根文芸協会の皆様には作品の審査をはじめ、夏休みに開催しております「夏休み文芸ワークショップ」の講師をお引き受けいただくなど、彦根市における新たな文芸活動の人材育成のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

これからも、明日の彦根を担う子どもたちの健やかな成長を、温かな目で見守っていただきますよう、関係各位の皆様にお願ひ申し上げ、発刊に寄せる言葉とさせていただきます。

令和二年 三月